

令和6年度 第2回 災害時要援護者支援連絡会 議事要旨

日時：令和7年2月5日(水)午後3時から午後4時30分

場所：中央北生涯学習プラザ 小ホール

1 議題等

- (1) 要配慮者（災害時要援護者）支援に係る主な取組状況について（報告）
- (2) 令和6年度 第1回 尼崎市災害時要援護者支援連絡会（講演会）のアンケート結果を踏まえた次年度の取組につなげるための意見交換等について（意見交換）
- (3) その他

2 主な協議内容（○意見等、●回答）

- (1) 要配慮者（災害時要援護者）支援に係る主な取組状況について
要配慮者（災害時要援護者）支援に係る主な取組状況について、資料1に基づいて説明を行い、その内容の質疑応答を行った。
（主な質疑内容）
 - 避難行動要支援者名簿の同意者数について、資料1に令和6年度の人数は記載されているが、過去5年の推移はどのようなになっているか、教えてほしい。
 - 基本的には、大きくは変わっていない。
平成27年度から平成28年度にかけて、避難行動要支援者の対象要件となっている方へ、一斉に同意確認書を送付したが、平成29年度以降は、避難行動要支援者ご本人等から提出いただく形となり、福祉専門職や当事者団体にもご協力いただきながら、声掛けをおこなっている。
 - 段階的に個別避難計画を作成しているとのことだが、いつまでに何人の個別避難計画を作成するか等の目標値と現在の進捗状況を聞きたい。
 - 風水害等災害リスクが高いところにお住まいの512名の方を対象に、令和8年度を目途に100%になるよう取組を進めている。その中で、いきなり約500名の方全員に意向調査を行い、個別避難計画を作成することは不可能であるため、段階的に進めている。
資料1のとおり、個別避難計画を作成するかの意向調査を送付いただいた方248名の中で、施設入所等、個別避難計画を作る必要性のない方や、本人が作成不要と判断された方を除いた計画作成率が58.3%となっている。
引き続き、令和8年度に100%に近づけるよう取組を進めるとともに、当初お示しした約500名の対応が完了した折には、状況を分析しながら、対象者を段階的に広げていくことも検討していく。
 - 個別避難計画作成の意向調査発送対象者248名のうち、103名の方に同意を得て、60件の個別避難計画を作成したとのことだが、どのような説明をして個別避難計画を作成することを受け入れてくれたか、どういう理由で断られた等、事例の説明があると分かりやすいと思う。

- 個別避難計画作成対象外の内訳は、長期入院や入所等が多い印象がある。
 なお、不同意者の理由については、郵送で意向調査を行っているため、追跡をしていない。
 しかしながら、不同意であっても、災害リスクの高いエリアに居住していっしょなことは変わらないことから、案内の中に災害への備えについて伝えとともに、可能な限りで自身での計画を作成するよう協力の依頼も併せて同封している。
 また、提出がない方で、市からの郵送物に気づいていない方がおり、電話連絡で確認したりしているが、福祉専門職のサポートが入る中で、郵送物に気づいてくださるようサポートいただきたい。
- 当団体が、個別避難計画を作成している方や個別避難計画の作成を拒否されている方の情報を得ることができるのであれば、拒否されている方への個別アプローチができる可能性があると思った。
- 不同意者に対する計画作成サポートの意見について、感謝申し上げる。
 個人情報の提供については、個別避難計画の作成等に同意された方は、避難支援等関係者へ情報提供できるが、不同意者等については、避難支援等関係者への情報提供の同意がとれていないため、情報提供ができない。当方としても、心配なところはあるが、個人情報提供の壁として、ご理解いただきたい。
- 避難行動要支援者の身体状況は流動的と考えるが、作成した個別避難計画の更新はどのように考えているか。
- 現時点では、個別避難計画作成を進めているところであり、内容に変更があれば、まずはご自身で修正いただくことをお願いしているが、計画作成の取組を始めたばかりであることから、更新等の運用については、今後検討を進めたいと考える。
- 資料1に、学生等の取組について記載されているが、本連絡会に学生に参加してもらい、取組にあたっての課題やよかった点を共有してもらうことで、各地域や団体への実施につなげてもらうよう行ったらどうかと思う。
- 学生の参加はスケジュール調整が難しい点もあるが、今後の参考にする。
- 団体の会員が、関西国際大学と協働で作成したパンフレットを認知していなかった。
 構成員全員に配りたいので、考慮してもらいたい。
- パンフレットについては、作成したときに、各委員へ確認し、団体内の必要部数を送付している。
 また、市政出前講座等のお声がけをいただければ、パンフレットに基づく個別避難計画の作成や勉強会を行いたいと考えており、そういった機会をいただけるのであれば、お気軽に声をかけていただきたい。

(2) 令和6年度 第1回 尼崎市災害時要援護者支援連絡会(講演会)のアンケート結果を踏まえた
 次年度の取組につなげるための意見交換等について(意見交換)

資料2 講演会のアンケート結果を踏まえて、「次年度の取組」や「協議や検討したいテーマ」について、各委員からいただいたアンケート回答の内容を含め、改めて意見を伺った。

(主な意見交換内容)

- 年数回の報告ではわからないため、ワーキンググループを作り、具体的な課題や対応策について考えることを検討してはどうか。

- 福祉施設で働いているが、やはり日頃の訓練が大切だと考える。
精神障害など障害のある方を避難誘導することは難しいと考えるが、コミュニケーション等、避難訓練実施までにどのような取組を行うことが効果的か検討できるような機会があればよいと思った。
- 隣近所同士が顔見知りであれば、助けようと思うと考えるため、各地域で防災訓練等に取り組むことが一番大切だと考える。
- 今後の取組については、各団体間の温度差を感じた。
防災の知識を、1つずつ、順序だてて学習するようなわかりやすい取組をするべきだと思った。
- 少し大きめの地震があると、南海トラフ地震だと、すぐにパニックになり、スーパーの棚から品物が消えてしまうようなことが起きている。
こうした誤った解釈によってパニックを起こさないような備えを共有できたらよいと思う。
- 事業所のBCP作成や、業務継続ができていなかった場合、利用者への支援が滞る可能性があることから、BCP研修などを定期的に実施することを計画している。
また、本連絡会に参加し、各委員の意見を聞いた上で、団体内に周知できればと考える。
- 発災時を想定した訓練や顔の見える関係づくりが大切だと考えるため、実際に体験できることを実施できたらよいと思う。
- 障害のある利用者へ、発災時はどうするか聞くと、避難所はすぐにあかない、避難所には行かない個別避難計画は必要ないという返事が多い実情がある。
自分たちには何ができるのか、自助について深めていきたいと考える。
- 支援者として防災意識を高める必要があると考えるが、何から始めたらいいのかを整理するために、各団体ごとの防災対策フローのようなものを作成するのも1つの取組になると思う。
- アンケート回答の中で記載されている、実施してみたい取組は、既に地域等で実施されているものが見受けられる。課題は、実際に取り組まれていることが、ほとんどの人が知らないということだと考える。
- 本連絡会の運営の在り方を含めて、各委員の思いを来年度以降に繋げていかないといけないと考える。
各委員が求めているのは、具体的な行動を促すための周知方法や、訓練など、個々の取組だと思う。そういった取組を、次年度以降に、具体的なアクションとして起こせるよう、本連絡会で検討をさせていただきたい。
また、具体的な取組から、個別避難計画の作成などにつなげていくことができればと思っているので、内容については、今後、事務局の方で検討させていただく。

以 上